

第2回総合計画審議会議事要旨

1 開催日時 平成30年10月12日(金)
午後6時00分から午後8時00分

2 場 所 流山市役所3階庁議室

3 出席者(17名) ※敬称略

(1) 審議会委員 (委員の構成)

井原 久光 (学識経験を有する者)
垣野 義典 (学識経験を有する者)
籠 義樹 (学識経験を有する者)
永田 隆二 (学識経験を有する者)
和嶋 隆昌 (学識経験を有する者)
杉浦 明 (教育委員会の委員)
中嶋 清 (農業委員会の委員)
大津 直之 (公共団体等の職員)
児島 正人 (公共団体等の職員)
中村 貢 (公共団体等の職員)
新保 國弘 (市民公益活動団体を代表する者)
田中 由実 (市民公益活動団体を代表する者)
石田 光規 (市民を代表する者)
井上 菊夫 (市民を代表する者)
大河原 彰 (市民を代表する者)
熊谷 嘉子 (市民を代表する者)
野村 正 (市民を代表する者)

※欠席委員(1名)

鈴木 孝夫 (公共団体等の職員)

(2) 出席職員等

(事務局職員)

総合政策部部長	山田 聡
総合政策部次長兼企画政策課長	須郷 和彦
総合政策部企画政策課課長補佐	秋元 忠勝
総合政策部企画政策課主任主査	伊藤 紀幸
総合政策部企画政策課主任主事	松岡 高希
総合政策部企画政策課主任主事	山崎 智明

株式会社富士通総研(総合計画策定支援業務受託者) 1名

(3) 傍聴（1名）

4 議 題

(1) 本市の現状と課題について

(2) 次回の会議について

(3) その他

5 配付資料

資料2-1 答申の全体イメージについて

資料2-2 目指すまちのイメージ・基本理念について

6 議事内容

- ・ 前回欠席の委員による自己紹介、第1回議事要旨の確認を行った。

(1) 本市の現状と課題について

- ・ 事務局より「資料2-1 答申の全体イメージについて」の説明を行った。

(井原会長)

- ・ 今回は、「資料2-1 答申の全体イメージについて」のうち、「答申事項1本市を取り巻く課題」について議論を行うが、「本市を取り巻く課題」とは、周辺環境も含めて言及しているということによいか。

(A委員)

- ・ 「年少人口の増加」とあるが、年少人口の増加による保育・教育ニーズ等の増加が課題ということか。書きぶりについて、市の状況が分かるような表現がよいのではないか。

(事務局)

- ・ 国や周辺地域等の動向に本市の状況が左右されることも想定した上で課題を整理している。

(B委員)

- ・ 内容の多くが現状に関することになっている。短期・長期といった視点での整理が必要ではないか。

(C委員)

- ・ 現状と課題の整理が必要と考える。また、「課題」という言葉そのものからネガティブな印象を与えてしまう可能性についても配慮が必要ではないか。

(D委員)

- ・ 外部環境に関する記載が多いと感じる。今後20年間の中でも、人口増が続く前半と人口減

に転じる後半では状況が異なる場合もあるため、20年共通の課題と、前半10年や後半10年の課題といったような整理が必要ではないか。

(E委員)

- ・ 課題の話だと各論になりやすくなってしまう。審議会の中では、まちづくりの全体イメージのような抽象的内容について議論は必要ないのか。
- ・ 前回の市長の話でも市外からの集客に関する内容が中心であったと感じる。転出した人たちに戻ってきてもらう。他市に流れている人たちの取りこぼしをなくすための取組みが必要ではないか。

(C委員)

- ・ 環境変化に強いまちづくりが必要になると考える。

(F委員)

- ・ 本審議会では構想に関する議論が必要と考える。今の状態が良い流山市だからこそ将来的な課題の議論が重要となるのではないか。

(井原会長)

- ・ 本審議会の答申事項にもなっている「基本理念」のイメージをもちながら課題・現状の議論が必要になっていく。

(G委員)

- ・ 資料の記載内容は、新たな課題なのか、今まで取り組んできた内容も含まれているのか。

(事務局)

- ・ 特に本日の審議会では、事務局が示した課題案について不足している視点等がないか、委員の皆様から意見をいただきたいと考えている。

(H委員)

- ・ 課題、ニーズ、方法論の順で検討を進めるのであれば、課題と目標設定に整合性が必要ではないか。

(I委員)

- ・ 子育て・保育に関する内容について言えば、ハコモノに関する記載に偏っていると感じる。「切れ目のない支援」、「虐待防止」といった内容も含めてよいのではないか。

(J委員)

- ・ 自然資源、例えば、森林および水田の減少といった観点が欠けているのではないか。森林と水田(湿地)は従来の流山の自然環境特性においてセットで欠かせないものとされている。

森林と水田の面積の減少、加えて、それら拠点の孤立化が進んでおり、「都心から一番近い森のまち」の具体像を説明しがたくなっている。市制施行後、特につくばエクスプレス工事開始以降、森林や水田の面積は減少を続け、野鳥で言えば、谷津田で繁殖するサンバ、常緑広葉樹の夏鳥サンコウチョウ、冬の水田のタゲリ、初夏の水田のムナグロなどが、調査で確認できないか、いても個体数が著しく減少している。

(K委員)

- ・ 今までも課題として取り上げられてきた内容については、資料のとおりで違和感がないように感じる。重要なのは新たな課題の整理ではないか。
- ・ また、市民の目にも触れるものであれば「高齢者の増加による市税収入の減少」は表現が適切ではなく、配慮が必要ではないか。
- ・ 「働き方改革の進展（共働き世帯の増加）」とあるが、働き方改革と共働きは対応していないのではないか。

(A委員)

- ・ 前回の資料「本市の現状と課題について」に記載されていた人口推計の結果をみると、老年人口の増加や生産年齢人口の減少は本市の実態に合っていないのではないか。

(E委員)

- ・ 課題の中の見出しの一つとして経済振興に触れていないことに違和感がある。
- ・ 保育・教育ニーズについては将来的なニーズの減少期も踏まえた計画が必要と考える。

(H委員)

- ・ 高齢者に関して言えば、高齢化率、要介護認定率は他市に比べて低くなっている。
- ・ 個人的には働き方改革と共働き世帯に関する記述には違和感がない。

(K委員)

- ・ 働き方改革は共働き世帯に限った話ではないのではないか。

(H委員)

- ・ 「増加する保育・教育ニーズ」の項目で触れられているのであり、文脈を踏まえれば問題ないと考える。

(C委員)

- ・ 「働き方改革」という文言は削除し、「切れ目のない支援」等の表現に変更した方が妥当ではないか。

(I委員)

- ・ 「働き方改革」とは市単位での課題なのか。子育て世代にとっては、保育所の預かり時間な

どが制約となり働きたくても十分に働けない場合などが問題になっている。

(L委員)

- ・ 40～50歳代に関する視点が欠けているのではないか。今後は副業などが増えていくと見込まれ、市内でのコミュニティ形成がますます重要になると感じる。

(C委員)

- ・ まちづくりは、「まちづくりをする人をつくることから」とよく言われている。地域コミュニティは目に見えないが重要な課題である。

(G委員)

- ・ 障害者に関する記載も抜けているのではないか。

(C委員)

- ・ 性別や障害の有無にとらわれない共生社会の形成が重要と考える。

(E委員)

- ・ 地域コミュニティの弱体化が「加速化する高齢者の増加」の一項目となっているが、この位置づけでよいか。大項目として位置づけることも考えられるのではないか。

(M委員)

- ・ 病気になっても元気な高齢者の方は多い。かつてないほど平均寿命が延び、80歳以上の方々がどのような生活を送ればよいか、参考となるモデルがないため戸惑いを覚えているように感じる。

(事務局)

- ・ 行政として「高齢者ふれあいの家」の整備を進めている。

(K委員)

- ・ 「高齢者ふれあいの家」でボランティアを行っているが、行政の支援のみでは限界がある。趣味などを通じて交流をしていくためには本人たちに任せる方がうまくいく場合が多い。

(事務局)

- ・ NPO団体の中にも地域の元気な高齢者が他の高齢者の世話をさせる仕組みが必要だと考え、活動を進めているところがある。和光市など他市の取組みの視察なども実施している。

(C委員)

- ・ 表現としての精査は必要であるが、元気な高齢者に地域の資源として活躍してもらうようなことが必要となる。

(I 委員)

- ・ 従来からのつながりがない人にとっては、既存のコミュニティに参加すること自体のハードルが高い場合がある。

(F 委員)

- ・ 「地域コミュニティ」はテーマとして取り上げるべきと考える。図書館の利用者をみても様々な方がおり、そういった人々の力を地域に活かしていればと感じる。特に地域のリーダーとなる人の育成が必要ではないか。

(J 委員)

- ・ 自分でテーマを見つけられる人と、そうではない人がいる。地域見守りなどのテーマを与えても、その人にとっての生きがいになるかは分からないのではないか。
- ・ 都市間競争について生産緑地の指定解除に関する記載があるが、宅地となるかどうかは分からないため、削除した方がよいのではないか。
- ・ 災害について、自然災害だけでなく原発等の記載も必要ではないか。

(N 委員)

- ・ 事務局案と本日の議論の内容に触れられていれば、外部環境についても整理されており、個人的には納得できる内容になると考える。

(O 委員)

- ・ 高齢化や子どもに関する取組みはやはり重要ではないか。
- ・ 将来的には都市間競争の激化が見込まれるため、他市の動向を踏まえた流山のあり方の検討が必要と考える。

(C 委員)

- ・ 流山市としてのプライオリティの明確化が必要である。
- ・ 前回のブランディングの議論の補足をする、主にネーミングは発信者視点、ブランディングは受信者視点となる。流山市に住み続ける市民が増えることも一種のブランディングである。

(B 委員)

- ・ 人口減少は他の項目よりも大きな内容であり別立てとした方がよいのではないか。
- ・ 自然環境だけでなく、緑の減少や無電中化による歩道の整備などの住環境についても追加した方がよいと考える。
- ・ 財政構造については、ファシリティマネジメントと財政の関連を示す必要があるのではないか。

(D委員)

- ・ グローバル化についての記載がないと感じる。外国人に向けた方針も必要ではないか。

(P委員)

- ・ 生産緑地については指定が継続されるケースもあるのではないか。

(事務局)

- ・ 都心の生産緑地が宅地になり市の転入が減少する可能性について記載している。

(J委員)

- ・ 都心は住宅の取得費用が高く若い人には住みにくいのではないか。

(O委員)

- ・ 全国的な動向を踏まえれば、指定解除となるケースも想定される。それらが宅地として供給された場合、都心に住む人も出てくるのではないか。

(Q委員)

- ・ 現計画の進捗や達成度はどうなっているのか。

(事務局)

- ・ 前回の「資料1－4本市の現状と課題について」に概要を記載している。

(C委員)

- ・ 「コミュニティ」は、防災、教育、介護などあらゆるテーマを横断するキーワードと考える。様々な人の居場所がまちの中にあることが必要となる。

(K委員)

- ・ 「共生社会」も重要なキーワードと考える。特に、シニアの活性化のためにはリーダー育成が必要である

(井原会長)

- ・ 本日の議論を踏また上で、改めて事務局には案の検討を行ってほしい。

(2) 次回の会議について

- ・ 事務局より「資料3－1目指すまちのイメージ・基本理念について」の説明を行った。

(3) その他

- ・ 事務局より事務連絡等を行った。